

## フランスにおける産業と福祉 1815-1914

専修大学 齊藤佳史

### 序章 問題の所在

19世紀以降のフランスの工業化は社会的保護の視角からいかに把握されるのか  
フランス産業界はいかなる形で社会的保護に関与していったのか  
フランス資本主義において「産業」と「福祉」の間にはいかなる関係が取り結ばれたのか

### 1 フランス資本主義の「二重の遅滞」

◇フランス革命後の経済発展をめぐる論争

- ①企業家の反産業主義や経済的マルサス主義（生産量制限に基づく価格引き上げと利益確保）に特徴づけられるフランス経済の長期的停滞性の指摘
- ②19-20世紀フランスの経済成長や構造変化に関わる実証研究（統計分析、金融史、経営史など）の側から示された「停滞」論批判
- ③国際比較における優劣の序列化を退けて、ダイナミズムと阻害要因の緊張関係から経済成長のフランス的「独自の道」を析出する修正主義の登場と定説化

◇修正主義（1980年代後半～）の成果

- ①フランス固有の動的な経済・社会システムを視野に収めつつ、経済成長への指向性を企業と国家の双方において検証
- ②市場経済の活動主体である企業の合理性・革新性のみならず、市場経済を管理する国家=官僚の構想・機構・政策実践にも積極的役割を付与
- ③近年における反省と模索の段階：「順調な経済発展」を与件とする硬直性  
しかし、依然としてフランス資本主義における産業界-国家関係を問い直し続ける

◇フランス社会政策史研究における「遅滞」・「停滞」の問題

- ①アッツフェルドによるフランス社会保障史研究（1971年）
  - ・ドイツやイギリスとの比較においてフランス社会保険制度導入の「遅滞」を指摘
  - 「遅滞」の一因：産業化の遅滞 / 旧態依然の経済構造の持続
  - ・フランス社会保障の形成過程を大企業と中小企業の間関係の中で把握
  - 大企業：生産力や産業福利の向上 ⇔ 中小企業：旧式技術や社会的負担回避への固執
  - 社会保険制度の「遅滞」は企業淘汰（大企業の台頭）の漸進性に起因
- ②コットによるフランス社会保険「遅滞」論の再検討（1995年）

・アッツフェルドの先駆的業績の定説化：社会保険形成の契機を問う姿勢の希薄さ

ex. 共済組合史研究：社会保険制度と共済制度を対立的に把握

博愛運動史研究：国家からの自律性の表現として博愛主義を理解

→「遅滞」の相対化：私的制度と公的制度の相互補完性や連続性の実証

第三共和政下の社会立法の意義 / 国家の積極的役割

→フランス社会保険の「遅滞」を見直す必要性

◇工業化と社会的保護の相互連関から見たアッツフェルドの研究の評価

①フランス社会保険「遅滞」論→単線的発展論に陥る危険性

社会保障の源流としての産業福利事業を指摘

社会的保護史研究に社会構造史的アプローチを導入

②産業化の遅滞 / 旧態依然の経済構造の持続 / 中小企業の守旧性 →再検討の余地あり

高い生産力を有する企業による社会保障整備への貢献を指摘

◇分析視角

フランス資本主義の歴史像「二重の遅滞」（経済発展 / 社会保障整備）の変貌過程

①修正主義：経済成長に向けた合理性や革新性を企業の生産活動に見出す

②アッツフェルド：企業の生産力と産業福利の相関性を示唆

⇒基本的分析視角：19-20世紀フランス産業の旧弊・限界に留意しつつも、その合理性・革新性を「生産拡大と福利拡充の両立」への指向性として把握

①工業化・社会的保護の展開と市場経済原理の関係

産業界：市場経済の活動主体でありながらも、「生産と福祉」の非市場的調整に関与

⇒工業化・社会的保護の展開と市場経済原理をめぐる思想・実践との連関

市場経済原理への産業界の対応と思想潮流の関係

②生産・福祉の展開局面における産業界と国家の関係

産業界-国家関係を生産と福祉の複合的視角から把握

⇒生産活動や社会的保護における国家介入に関する産業界側の認識と対応

生産と福祉をめぐる産業界-国家関係に関する思想的観点からの理解

## 2 工業化と社会的保護の連関の規定要因

### (1) 中間団体

◇フランス革命に伴う中間団体の状況

フランス革命：旧体制下の中間団体の解体 / 1791年ル・シャプリエ法による結社の禁止

→19世紀フランスの工業化は中間団体に依拠しない形で開始

ただし、産業界における公式・非公式な情報交換・協議の場の形成

労働者・職人層の社会的結合に基づく自律的世界の形成

- 1884年職業組合法制定による転換：職業組合結成の承認
- 1898年共済組合憲章や1901年アソシエーション法を経て中間団体の再編が進行

#### ◇社会構造論から見た革命以降の中間団体の状況

- ル・シャプリエ法による「二極モデル」の成立：個人=特殊利益と国家=一般利益の対峙
- 社会的結合の創出主体としての国家：「社会の空白状態」
- 個人と国家の中間領域の復権・再編を課題に掲げる社会学の登場
- ex. ル・プレ学派やデュルケム学派：19-20世紀の社会的保護に思想的影響

## (2) 社会問題

#### ◇七月王政期の社会問題

- 1815年以降のフランスは緩慢ながらも持続的な経済成長を開始
- 都市人口増加に伴う貧民地区の形成や衛生環境・治安の悪化
- 社会問題の登場：支配階層は大衆的貧困を公的秩序における恒常的問題として認識
- モラル化（集合心性の観察に基づく民衆への指導と介入）を軸とする社会的保護の推進

#### ◇第三共和政期の社会問題

- ・大不況→工場生産の低迷、農村家内工業の解体、都市手工業の危機
- ・1884年職業組合法の制定→労働運動の顕在化
- 19世紀末には一連の社会調査や社会的保護が共和政の統治技術として展開
- ただし、社会問題の把握に関して支配階層における一致は存在せず
- 世紀転換期における「改革の星雲」の形成：労働・社会立法、各種社会改良団体、慈善・扶助事業、産業福利事業などが多様な社会改革思想と交錯

## (3) 経済的規範

#### ◇モラル・エコノミーとポリティカル・エコノミー

- モラル・エコノミー的規範：生存権>所有権 / 市場外的要因による社会的公正の実現
- 支配階層による統治の正統性：公正価格や共同体的規制に準拠した保護措置
- 19世紀支配階層におけるポリティカル・エコノミーの浸透：流通の自由 / 契約の自由
- 共同体的規制の後退：民衆の経済的規範は市場経済原理に統合される方向へ

#### ◇ポリティカル・エコノミーと社会的経済（エコノミー・ソシアル）

- 七月王政期：自由主義経済学者の政権関与 / 経済的自由主義の一大勢力の台頭
- 19-20世紀転換期：高等教育・研究機関でのポリティカル・エコノミーの受容・制度化
- 緩慢さの要因：①社会問題の影響②農工商業の均衡的発展の重視③小規模所有の持続
- 七月王政期の社会問題に伴うポリティカル・エコノミーへの対抗的思想潮流の形成

→社会的経済（エコノミー・ソシアル）：市場経済下の民衆の生存保障を重視  
ただし、社会的経済は明確に一貫した原則を持たず、理念的自律性を欠く  
→19世紀末の社会問題の中で社会的経済は第三共和政の統治技術と結合

### 3 構成

- 第1章 1841年児童労働法をめぐる生産と福祉
- 第2章 アルザス地方におけるパテルナリズムの成立と展開
- 第3章 ル・プレエ学派のパトロナージュ論と社会改革
- 第4章 第三共和政期におけるパテルナリズムの社会的位置
- 第5章 労働局の設立と活動
- 第6章 世紀転換期における労災問題の展開

#### 第1章 1841年児童労働法をめぐる生産と福祉

◇1841年児童労働法の提案から制定までの特徴

- ・児童労働者の身体的保護の問題は広く共有されたが、特定の利害は貫徹されず
- ・児童労働規制の目的に関しては議会の外部と内部の間で明瞭な相違

①法律提案（議会外部）の主要アクター：ミュルーズ工業協会

企業内労働力の陶冶 / 企業間競争の改善 / 生産秩序の安定化

②法律制定（議会内部）の主要アクター：社会カトリシズム勢力

工業化の抑制 / 農村社会の復興 / 工業労働の弊害是正

→ただし、①と②は大衆的貧困に関わる市場経済原理への批判的見解を共有  
労働者福祉の改善や伝統的社会紐帯の強化に向けた支配階層の意志の存在

→規範的経済理念の再構築へ：ポリティカル・エコノミーに対抗する社会的経済  
生産局面（国富の総体的増大）よりも分配局面（民衆の福祉増進）を重視

◇アルザス産業界における児童労働規制の意義

①社会問題に対応した企業内秩序の構築

大衆的貧困や労使間の没人格的關係を市場経済との連関で把握

→雇主の家父長的役割に基づく労使協調体制への指向性

→労働力の再生産と定着化に向けた産業福利事業の推進

⇒児童労働規制：労使関係改善や将来的労働力向上の手段

②工業危機に対応した企業間競争秩序の構築

アルザス綿工業発展の基礎：国内市場における自由競争

→工業危機や不況局面における自由競争：過当競争激化による適正利潤形成の阻害

⇒児童労働規制：公正な競争秩序の創出に向けた競争条件の均一化

ただし、19世紀的な市場規範は企業家の自己規制的な慣行によって維持

## 第2章 アルザス地方におけるパテルナリズムの成立と展開

### ◇パテルナリズムの定義と特徴

定義：雇主が企業での家父長的権威に依拠しつつ、労働者への社会生活上の援助を通じて  
労使関係の安定化を図る政策体系

特徴：①家族共同体としての企業体

②労使間の擬制的父子関係としての保護・服従関係

③市場経済原理の枠外にある社会的諸便宜の供与＝非市場的調整

### ◇パテルナリズムと地域社会

地域社会のモラル・エコノミー的規範によるパテルナリズムの制御

19世紀の工業化局面における支配階層-民衆関係：地域的な食糧確保を規準に成立

①産業界＝地域支配階層：コミュニオンへの食糧援助を通じて民衆の生存を社会的に保障

②労働者＝民衆：公正な食糧分配を慣習的権利と認識

→1847年食糧騒動：食糧確保を通じた社会的公正を求める労働者＝民衆の行動様式を表現

ex. 市当局・パン屋・粉屋に対する批判・攻撃 / 一定の自己規律に従った抗議行動

### ◇アルザスのパテルナリズムの規定要因

①産業界の社会的意識：市場経済の弊害や社会的保護の必要性を認識

②都市精神の伝統：中央政府からの一定の自立性

③工業部門の成長と農業部門の停滞：純粋な工業労働者を育成する必要性

第二帝政期：穀物流通規制の消滅、都市への人口集中、中央集権制の強化

→産業福利事業の本格的推進：パテルナリズムによる地域社会の再編へ

### ◇パテルナリズムとモラル・エコノミー

福利事業を通じたモラル・エコノミー的規範の連続性と断絶性

①連続性：非市場的な理念に基づき、労働者の生存を地域的枠組みで保障

②断絶性：労働者の社会的結合を排除して、労働力規律化を消費生活局面にまで拡大

### ◇イギリス経済に対するアルザス産業界の認識

・産業福利事業の先駆性に触発（技術的優位性と福利事業の先進性の連関を認識）

・社会経済状況を理念・制度面から批判的に検討（ポリティカル・エコノミーを自由放任主義の観点から批判 / イギリス工場法を企業活動への過剰規制として認識）

## 第3章 ル・プレエ学派のパトロナージュ論と社会改革

### ◇ル・プレエ学派と社会再編

- ・階層的社會秩序観に基づき、個人と国家の中間領域を再編 / 社会への自律性の付与
- ・国家介入に対する私的イニシアティブの優位を主張
- ・官僚制は国家への個人の吸収と従属を進行させると認識
- ・雇主の協同性・自発性に基づく産業福利事業を積極的に評価

#### ◇ル・プレのパトロナージュ論

工場体制：経済危機発生や道徳性低下の元凶

大衆の貧困=社会問題の原因：イギリス由来の経済的自由主義

→社会問題の解決策：「社会的権威」によるパトロナージュ

パトロナージュ：雇用の永続性や大衆の生存保障を理念的基礎とし、労働者家庭の再建や生活給付（半農半工型の労働形態を積極的に評価）を特徴とする

⇒七月王政期の社会カトリシズムの社会的経済を継承

伝統的階層秩序 / 農村社会復興 / 富の創出<福祉の分配

#### ◇シェイソンのパトロナージュ論

社会カトリシズムとの一致：社会福祉の点でポリティカル・エコノミーの規範的再定義

他方で、第三共和政下の新たな社会問題の存在：労働運動や農業不況

→階級問題を考慮に入れた労使協調体制の再構築

社会的技師の機能：近代的工場制度や科学技術に立脚した労働者統合

農工兼業の放棄（ex. 協同組合制度の奨励：パトロナージュとアソシアシオンの融合）

国家の関与：調査実施、児童・婦人保護、衛生問題などについては条件つきで是認

#### ◇パトロナージュ論をめぐるル・プレとシェイソンの比較

①各時代に固有の社会問題がパトロナージュ=社会的保護の態様を規定

⇒労使関係や労働形態に関する明瞭な相違

②社会問題は貫して資本主義の展開に連動

⇒市場経済原理の批判的検討や労働者の生存保障の点で一致

イギリス由来のポリティカル・エコノミーへの対抗潮流を形成

#### ◇1867年パリ万博新褒賞部門

①パトロナージュ実践の表彰：産業福利事業の社会的承認

社会改革に社会的経済を適用する試み（1889年パリ万博での言及）

②新褒賞部門とパテルナリズムの間の理念的な「ずれ」

新褒賞部門：ル・プレの影響の下で伝統的な農工兼業を重視

⇔パテルナリズム：労働者の「土地からの全面的離脱」に基づく工業発展を展望

## 第4章 第三共和政期におけるパテルナリズムの社会的位置

### ◇パテルナリズムの成立要因と基本的理念

#### ①労働力の安定的調達（←人口動態、産業立地、熟練度などによって規定）

労働力の質的・量的安定性の追求

→生産と消費の両局面における規律化の推進

モラル化：労働者の集合心性の観察に基づく指導と介入

#### ②市場経済進展に伴う労働・生活条件の不安定化

19世紀前半：大衆的貧困の出現

→産業界における経済的自由放任主義批判

→産業福利事業を通じた労働者の社会的生存保障：モラル・エコノミ的経済倫理

→第三共和政期：新たな社会問題に対応した階級協調・共和政維持の機能

#### ③中央集権化や国家介入に伴う産業界と国家の対抗関係

フランス革命による社团的編成の理念的解体

国家：一般利益の体现者 / 官僚制の整備⇔産業界：公共的領域での活動拡大

→第三共和政期の社会問題に対応した労働・社会立法

国家：労使関係への介入強化⇔産業界：企業を拠点とする中間団体再編や公共性確立

### ◇ポン=タ=ムソン社におけるパテルナリズムの展開

#### ①転換点としての1905年ストライキ

ロレーヌ産業界：ムルト=エ=モーゼル鉱山・鉄鋼協会の設立

ポン=タ=ムソン社：労働者監視の強化 / 雇主の言説の増大 / 各種福利事業の拡充

#### ②パテルナリズム言説

メダル受賞者祝宴：長期勤続と結合した労使協調の演出 / パテルナリズム言説形成の場  
言説の特徴：モラル化や生存・雇用保障を通じた企業の公共性の創出

言説における連帯概念：連帯主義を想起させつつも本質的にはパトロナージュ論に合致

#### ③産業福利事業

労働力定着化や生存保障を通じた労使協調体制の構築 / 持続的な生産拡大と並行

パトロナージュと連帯の混合：社会改革でのパトロナージュ論と連帯主義の接近を示唆

### ◇社会改革における産業福利事業

#### ①パトロナージュ論と産業福利事業

パトロナージュ論：市場経済原理の批判 / 国家介入に対する私的イニシアティブの優位

→産業福利事業に社会改革の実践手段としての正当性を付与

#### ②1889年パリ万博における社会的経済展覧会

社会的経済：七月王政期の出現以来、理念的独自性を欠いた状態に置かれる

→社会的進歩の理念として復興 / 第三共和政の統治技術と結合

アソシアシオンや私的イニシアティヴに立脚した生存保障制度の包括的概念  
第14部門：産業福利事業を社会的経済の一形態として承認

◇社会的経済をめぐるパトロナージュ論と連帯主義

①連帯主義の台頭

社会的経済展覧会→社会博物館の設立（1894年）

→社会博物館における多様な社会改革理念の議論

連帯主義の台頭：第三共和政の労働・社会政策思想

②1900年パリ万博における連帯主義

連帯主義：相互化の観点からアソシアシオンに基づく諸個人の社会的生存保障を提言

→社会的経済に合致

→1900年パリ万博社会教育国際会議：連帯主義と社会的経済の理念的結合

③パトロナージュ論と連帯主義

・社会的権利・義務をめぐる認識の相違

・社会的生存保障としての共済組織の奨励、アソシアシオンに基づく公的秩序の是認、自由放任主義と集産主義への批判に関して見解を共有

⇒社会的経済は両者の結節点として機能

## 第5章 労働局の設立と活動

◇労働局と国家介入

世紀転換期の社会調査や社会的保護：第三共和政の統治技術として台頭

→労働局（1891年設立）：労働・生産に関する実態調査期間

①フォンテーヌ：労働官僚

国民の生存を保障する「道徳的規範の番人」としての国家：19世紀前半以来の連続性

社会の異質な構成要素を連帯させる主体としての国家：連帯主義の影響

②シェイソン：ル・プレエ学派

統計の精緻化に限定した国家介入を容認

→保険統計整備の遅滞に関して労働局を批判 / 私的イニシアティヴに傾倒

◇労働局と経済近代化

アンベール：労働生理学研究

労働局との連携：労働疲労の視点から社会問題の解決策を模索

生産力増大を通じた福祉拡充の展望：労働時間短縮による生産性上昇 / 機械化推進

⇔シェイソン：パトロナージュ論

1906年週休法を通じた国家介入を容認

週休の意義：労働者家族のモラル化を通じた社会の安定化



生産性の低い小工業の温存を容認：二重構造論（近代化抑制論）

◇1906年週休法運用をめぐる国家-産業界関係

鉄鋼業界：価格競争激化→昼夜連続操業のための安定的労働力供給の必要性

労働時間短縮に対する否定的見解 / 週休法導入に反対

労働局との情報交換能力を武器に労働監察局を牽制

労働局：1906年週休法特例事項の作成

フランス鉄鋼協会との連携

鉄鋼業界の意向に沿った現状維持を選択：緩やかな国家介入

## 第6章 世紀転換期における労災問題の展開

◇1898年労災補償法の制定

①「職業的リスク」に基づく無過失責任原則：従来の市民法的な解釈からの転換

定率填補制：民事責任の一般法の排除 / 雇主の有限責任→労使間の負担バランスを考慮

⇒賠償額の正確な算定、保険を通じた危険の予測・分散が可能に→産業界による受容

②議会：相互扶助原理に基づく保険制度を支持

産業界：国家管理型強制保険の回避→フランス鉄鋼相互保険組合金庫の結成（1891年）

⇒任意保険制度の採用→産業界主導の相互保険組合の発展

◇労災防止をめぐる産業界と労働監督局

①産業界：フランス労災事故防止企業家協会の結成（1883年）

労災補償法案との関係で国家介入を警戒しつつも、政府との協調関係を構築

他方で、会員の現実的要求への配慮や譲歩→安全対策をめぐる労働監督局との対立

②労働監督局：1890年代以降の衛生・安全関連法令による活動領域の拡大

専門的技術官僚から構成→労使双方との距離を置きつつ衛生・安全問題に関与

◇社会改革思想から見た労災問題

①ブルジョワの連帯主義

利益とリスクの相互化による「公正」実現 / 相互扶助組織を通じた予見は諸個人の義務

労災補償法制定：社会的リスクに対する集団的保険組織化の一大契機

リスクの相互化を担う自発的な協同組織と国家の補完関係を是認

②シェイソンのパトロナーシュ論

雇主後援の労災補償は社会平和の基礎 / 産業界主導の労災防止は社会的義務行為

職業的リスク：大工業に固有の概念 / 法的規定に拘束力を見出さず

労災補償対策を雇主の自発性に委ね、保険の担い手を私的任意団体に求める

⇒①と②の間には「リスク」概念の射程や保険組織化の意義に関して隔たりが存在

労災補償問題に関しては相互扶助原理に基づく自律的な中間団体を志向する点で一致

#### ◇労災事故国際会議の結成と活動

労災事故国際会議（1889年結成）：社会改革として労災問題を議論する場

→ドイツの保険制度へのフランス産業界の対抗

フランスにおける国家管理型保険導入への批判や牽制

→1898年労災補償法制定後、議論の重心は労災統計の問題へ（フランス公式統計の遅れ）

→社会改革の領域の拡大に伴い、保険制度の包括的な議論の場へと変容

#### ◇労働生理学と労災問題

労働生理学：労災問題への自然科学的接近法（ex. 職業的疲労と労災事故の関係の分析）

労働時間と労災事故の関連性の提示 / 労災事故＝社会の総エネルギー減少として把握

→労働時間に関わる国家介入を総エネルギー保全行為として正当化

8時間労働の合理性を主張 / 労働時間規制の先に機械化推進や労働生産性上昇を展望

→労働省との連携：労災問題、労働時間短縮、経済近代化を連関づけた政策提言

## 終章 総括

### 1 工業化・社会的保護の展開と市場経済原理

#### ◇1841年児童労働法

・1820年代以降のアルザス産業界は生産過剰や過当競争の問題に直面

→児童労働規制の提案：適正利潤形成の観点から公正で安定的な自由競争秩序を追求  
ただし、19世紀の市場規範は生産活動における自己規制的な慣行に支えられていたため、  
競争秩序の強制的創出に向けた直接的な市場規制措置は講じられず

・七月王政期の社会問題

①アルザス産業界：市場経済の社会的弊害の認識

労働者のモラル化や生存保障の奨励→労働者階層安定化のための児童労働保護

②議会の社会カトリシズム勢力：労働者福祉への配慮

工業化抑制や農村復興を念頭に置きつつ、工業労働に内在する弊害の是正を訴える  
イギリス経済学に対する批判：生産局面よりも分配局面を重視

⇒工業労働に関する評価の相違

他方で、労働者福祉をめぐる市場経済原理批判の共有：社会的経済の萌芽的出現

#### ◇アルザス地方におけるパテルナリズムの展開

①工業生産に適合的な労働力再生産の確立：労働力の安定的調達と規律化

②モラル・エコノミー的規範への配慮：市場経済の展開に対応した生存保障制度

ポリティカル・エコノミーへの実践的な対抗潮流を形成

ただし、イギリス産業の法制的枠組み（ex. 工場法）を企業活動への過剰規制と認識

◇第三共和政期におけるパテルナリズムの変容

- ・新たな社会問題：市場経済の拡大 / 労働運動の顕在化  
→パテルナリズムは労働者の生存保障の他に階級協調や共和政維持の機能を有する
- ・ポン=タ=ムソン社の事例：労使協調体制構築や公共性創出 / 言説・福利事業におけるパトロナージュと連帯主義の混合

◇ル・プレ学派のパトロナージュ論と産業福利事業

- ル・プレ学派：個人と国家の中間領域の再編として階層的な社会紐帯の再強化を模索
- パトロナージュ論：労働者の生存に関わる雇主の社会的責任の理論化  
→産業福利事業に社会的機能を付与

①ル・プレのパトロナージュ論

- 社会的経済の思想的系譜：伝統的社会秩序観 / 富の創出<福祉の分配 / 市場経済批判
- 1867年パリ万博：産業福利事業の社会的承認 / 農工兼業をめぐる理念的な「ずれ」

②シェイソンのパトロナージュ論

- 第三共和政期の社会問題→階級協調や農工兼業放棄の考慮 / 共済・協同原理への接近
- 1889年パリ万博：社会的経済の定義（生存保障制度の包括的概念） / 産業福利の公式化

◇ブルジョワの連帯主義

- ・第三共和政の労働・社会政策理念として世紀転換期に台頭
  - ・行政機関（ex. 労働局）の中枢に浸透 / 労災補償制度の導入に思想的影響
  - ・経済的自由放任主義と集産主義への批判 / 相互化やアソシアシオンに媒介される公的秩序への指向性→1900年パリ万博における社会的経済との理念的結合
- ⇒連帯主義とパトロナージュ論の間には、社会的権利・義務に関する認識の相違が存在したものの、社会的経済を結節点として社会改革の実践面での相互接近が実現

## 2 生産・福祉の展開局面における産業界と国家

◇ミュルーズ工業協会における1841年児童労働法の意義

- ①「産業の自由」の信奉 / 生産過剰問題をめぐる自由放任主義の批判  
→児童労働規制：工業危機に対応した企業間競争秩序の創出
- ②労働者階層の不安定化に関わる社会問題の危機的認識 / 労使協調体制の推進  
→児童労働保護：社会問題に対応した企業内秩序の創出

◇パテルナリズムと産業界-国家関係

- ・19世紀の中央集権制や官僚制 / 第三共和政期の労働・社会立法

→産業界は労働者の生存保障を通じて公共性創出の主体として台頭  
産業福利事業に内在する「産業界の自立性」や「官僚制への対抗」

◇ル・プレ学派と国家介入

①ル・プレ

- ・大衆的貧困を生起させる経済的自由放任主義 / 社会的権威の介入 (パトロナージュ)
- ・官僚制批判：中央集権的統制による個人の活動領域の侵害 / 国家への公衆の吸収・従属

②シェイソン

- ・パトロナージュの優位 / 私的イニシアティヴを侵害する官僚制の排除
- ・パトロナージュ・アソシアシオン・国家の相互補完的關係

◇第三共和政期の労働・社会立法における産業界-国家関係

①産業界の実情に配慮した緩やかな国家介入

- ex. 1898年労災補償法の定率填補制や任意保険制度→産業界による積極的受容
- 1906年週休法特例事項に関する労働局とフランス鉄鋼協会の緊密な情報交換

②社会的保護をめぐる産業界と労働監督局の持続的緊張関係

- ex. 安全対策に関するフランス労災事故防止企業家協会と労働監督局の対立
- 1906年週休法の運用面におけるフランス鉄鋼協会と労働監督局の摩擦

◇社会改革論における産業界と国家：パトロナージュ論と連帯主義

①労働局の機能をめぐる見解

- シェイソン：労働統計に関する留保つきの国家介入
- フォンテーヌ：分業社会における異質な要素の連帯のための国家介入

②1898年労災補償法への関与

- シェイソン：雇主の自発性に基づく労災補償 / 私的任意団体による保険引き受け
- ブルジョワ：社会的リスクに対する集団的保険組織化としての労災補償法

⇒相互扶助原理に基づく自律的な中間団体を志向する点で両者は一致

◇世紀転換期における労働生理学の登場

労働生理学：生産と福祉をめぐる産業界-国家関係を職業的疲労の視角から把握  
→労働局や労働監督局との連携 / 国家による労働時間規制の科学的根拠を提示  
→労働時間短縮の先に機械化推進や労働生産性上昇を展望

### 3 展望

①社会的経済の歴史的展開：制度と実践

- ・19世紀における社会的経済の担い手：支配階層のみならず民衆にも見出される

- ex. 民衆による主体的なアソシアシオン形成 (→1901年アソシアシオン法に伴う転換)
- ・社会的経済の歴史的源流：社会主義 / 社会キリスト教主義 / 連帯主義 / 自由主義
- ・20世紀以降の社会的経済は複雑な制度化や統合化による分散傾向
- ②経済近代化と官僚制メカニズム：近代化・合理化をめぐる構想と実践
  - ・フランス産業界における「生産の優位性」と「福祉の先進性」の相互連関
  - ・パテルナリズムは生産拡大と福利拡充の両立を指向するが、革新性や合理性の点で限界
  - ・労働生理学者は技術革新・生産力上昇の可能性を展望しつつ、労働官僚との連携を模索  
→労働官僚の動向は1919年八時間労働法に帰結
  - ・第一次世界大戦の経験によるフランス経済の「相対的遅れ」の認識  
→経済近代化構想を通じた国家介入の新たな役割の提起  
→第二次世界大戦直前の近代化論の再燃→近代化に向けた戦後の国有化・計画化
- ③労働・社会政策の国際化とフランス資本主義：生産と福祉の進展
  - ・19世紀末以降の社会的保護をめぐる国際的な相互作用や並行性
  - ・20世紀の国際労働政策形成における労働官僚の役割  
ex. 国際労働者法的保護協会や国際労働機関へのフォンテーヌの関与
  - ・諸国間の経済的・社会的な相互作用を念頭に置きつつ、「官僚制の国際的展開」と「労働力移動や企業活動の国際化」を視野に入れる必要性

\*\*\*\*\*

## 参考文献

### 1 文書館資料

#### Archives nationales (Paris)

BB/20/139.

BB/21/505.

BB/30/376.

F/1cIII/Haut-Rhin/7.

F/7/9533.

F/12/3767, F/12/4617, F/12/4704, F/12/4705, F/12/4712/B, F/12/4743, F/12/7391-7407.

F/22/381, F/22/383, F/22/489, F/22/490, F/22/526, F/22/543, F/22/553-554, F/22/563.

#### Centre des Archives du Monde du Travail (Roubaix)

41/AS/1.

65/AQ/K/178.

**Archives départementales du Haut-Rhin (Colmar)**

1M66.  
6M403, 6M414, 6M423.  
9M3, 9M5, 9M9, 9M23, 9M24.  
10M3, 10M4, 10M5.  
1T90, 1T94, 1T779, 1T780.  
4X12, 4X44, 4X45.  
1Z423, 1Z511, 1Z513.

**Archives départementales du Meurthe-et-Moselle (Nancy)**

10M36.

**Archives municipales de Mulhouse (Mulhouse)**

DI a1.  
FVI Ea4, FVI Ea7.

**Saint-Gobain Archives (Blois)**

3002, 5408, 5409, 5424, 6652, 6669, 6673, 6689, 6693, 6719, 6722, 6739, 6757, 7164,  
18715, 25653, 27746, 27793, 36625, 41578.  
DOC PAM 21, DOC PAM 22.

**2 刊行資料**

*Annales de la Chambre des Députés.*

*Annuaire statistique de la France.*

*Bulletin de l'Association des industriels de France pour préserver les ouvriers des accidents de fabrique.*

*Bulletin des Assurances sociales.*

*Bulletin de la Ligue populaire pour le repos du dimanche en France.*

*Bulletin de la Société industrielle de Mulhouse.*

*Bulletin du Comité permanent des Congrès internationaux d'assurances sociales.*

*Bulletin du Conseil supérieur de statistique.*

*Congrès international des accidents du travail. Bulletin du Comité permanent.*

*Conseil supérieur du Travail. Compte-rendu.*

Département du Haut-Rhin, *Réponses aux questions de l'enquête industrielle ordonnée*

*par l'Assemblée nationale*, Mulhouse, 1848.

*Exposition universelle de 1867 à Paris, Rapports du jury international*, 13 vol., Paris, 1868.

*Exposition universelle internationale de 1889, Congrès international des accidents du travail, tome2, Comptes rendus des séances et visites du Congrès*, Paris, 1890.

*Exposition universelle de 1889 à Paris, Exposition d'économie sociale. Enquête*, Paris, 1887.

*Exposition universelle internationale de 1889 à Paris, Rapport général*, tome9, Paris, 1892.

*Exposition universelle internationale de 1889 à Paris, Rapports du jury international, Groupe de l'Economie sociale*, 2 vol., Paris, 1891.

*Exposition universelle de 1900, Congrès international de l'éducation sociale*, Paris, 1901.

*Exposition universelle de 1900, Congrès international des accidents du travail et des assurances sociales, tome2, Comptes rendus des séances et visites du Congrès*, Paris, 1901.

*Journal des économistes.*

*Journal officiel de la République française.*

*L'économie sociale à l'Exposition universelle de 1900. Livre d'or des exposants du groupe XVI*, tome3, Paris, 1903.

*Le Moniteur universel.*

*Le Musée social. Mémoires et documents.*

*Les Ouvriers des deux mondes.*

*L'Industriel alsacien.*

*Musée social.*

Office du Travail, *Etude statistique des accidents du travail d'après les rapports officiels sur l'assurance obligatoire en Allemagne et en Autriche*, Paris, 1892.

Office du Travail, *De la conciliation et de l'arbitrage dans les conflits collectifs entre les patrons et les ouvriers en France et à l'étranger*, Paris, 1893.

Office du Travail, *Statistiques des grèves et des recours à la conciliation et à l'arbitrage survenus pendant l'année*, Paris, 1893-.

Office du Travail, *Hygiène et sécurité des travailleurs dans les ateliers industriels*, Paris, 1895.

Office du Travail, *La petite industrie. Salaire et durée du travail*, 2 vol., Paris, 1893, 1896.

Office du Travail, *Les caisses patronales de retraites des établissements industriels*,

Paris, 1898.

Office du Travail, *Enquête sur le travail à domicile dans l'industrie de la lingerie*, tome I, Paris, 1907.

*Rapport de la Commission libre nommée par les manufactures et négociants de Paris sur l'enquête relative à l'état actuel de l'industrie du coton en France*, Paris, 1829.

*Rapport par Poirrier. Sénat, no.73, Annexe au procès-verbal de la séance du 3/4/1895*, Paris, 1895.

*Rapport par Ricard. Chambre des députés, no.1926, Annexe au procès-verbal de la séance du 25/2/1892*, Paris, 1892.

*Rapport par Thévenet. Sénat, no.15, Annexe au procès-verbal de la séance du 25/1/1898*, Paris, 1898.

*Rapport sur l'Exposition universelle de 1867. Précis des opérations et listes des collaborateurs*, Paris, 1869.

*Rapports sur l'application pendant l'année... des lois réglementant le travail.*

### 3 同時代文献

Blanqui, A., *Histoire de l'économie politique*, Paris, 1860.

Bourgeois, L., *Solidarité*, Paris, 1896.

Bourgeois, L., « Solidarité, justice, liberté », *Exposition universelle de 1900, Congrès international de l'éducation sociale*, Paris, 1901.

Bourgeois, L., « L'idée de la solidarité et ses conséquences sociales », *Essai d'une philosophie de la solidarité*, Paris, 1902.

Bourgeois, L., *Solidarité*, 7<sup>e</sup> édition, Paris, 1912.

Bourgeois, L., *La politique de la prévoyance sociale, tome I, La doctrine et la méthode*, Paris, 1914.

Canisy, A. C. de, *L'ouvrier dans les mines de fer du bassin de Briey*, Paris, 1914.

Cheysson, E., « Leçon d'ouverture du cours d'économie politique », *Journal des économistes*, décembre 1882.

Cheysson, E., « L'économie sociale à l'Exposition universelle de 1889 », *La Réforme sociale*, 1/7/1889.

Cheysson, E., « Les lacunes de la statistique et les lois sociales, communication faite au Congrès des Sociétés savantes, le 30 mai 1890 », *Bulletin du Comité des travaux historiques et scientifiques. Section des sciences économiques et sociales*, 1890.

Cheysson, E. et Toqué, A., *Les budgets comparés des cent monographies de familles*, Rome, 1890.

Cheysson, E., « La lutte des classes », *Revue internationale de sociologie*,



- novembre-décembre, 1893.
- Cheysson, E., « La monographie d'atelier », *La Réforme sociale*, 1/12/1896.
- Cheysson, E., « Le rôle social de l'ingénieur », *La Réforme sociale*, 1/10/1897.
- Cheysson, E., « Les actuaires et la loi », *Bulletin du Comité des accidents*, 1897.
- Cheysson, E., « Coopération et mutualité », *Musée social*, octobre 1899.
- Cheysson, E., « La coopération et la mutualité », *La Réforme sociale*, 1/12/1900.
- Cheysson, E., « La solidarité sociale », *L'Economiste français*, 4/7/1903.
- Cheysson, E., *Rapport sur la statistique des accidents du travail*, Paris, 1905.
- Cheysson, E., « Le devoir social et la formation sociale du patron », *La Réforme sociale*, 1/7/1905.
- Cheysson, E., « Le patron, son rôle économique et social », Cheysson, E., *Œuvres choisies*, tome2, Paris, 1911.
- Cheysson, E., *Œuvres choisies*, 2 vol., Paris, 1911.
- Cheysson, E., *Etat présent de la question des accidents du travail en France*, s.l.n.d.
- Coquelin, C. et Guillaumin, G.-U. (dir.), *Dictionnaire de l'économie politique*, Paris, 1852.
- Cordier, A., *Exposé de la situation des industries du coton et des produits chimiques dans la Seine-Inférieure et l'Eure, 1859-1869*, Rouen, 1869.
- Cours populaires de Mulhouse*, Mulhouse, 1865.
- Dollfus, E., *Notes pour servir à l'histoire de l'industrie cotonnière dans les départements de l'Est*, Mulhouse, 1857.
- Dollfus, J., *Plus de prohibition sur les filés de coton*, Paris, 1853.
- Dunoyer, C., *Nouveau traité d'économie sociale*, Paris, 1830.
- Durkheim, E., *De la division du travail social*, Paris, 1991 (田原音和訳『社会分業論』青木書店、1971年).
- Fontaine, A., *Notes sur l'intervention de l'Etat dans le contrat de travail*, Paris, 1896.
- Fontaine, A., *Les grèves et la conciliation*, Paris, 1897.
- Fontaine, A., « La solidarité dans les faits économiques », *Exposition universelle de 1900, Congrès international de l'éducation sociale*, Paris, 1901.
- François-Poncet, A., *La vie et l'œuvre de Robert Pinot*, Paris, 1927.
- Frégier, H.-A., *Des classes dangereuses de la population dans les grandes villes*, 2 vol., Paris, 1840.
- Grad, C., *Etudes statistiques sur l'industrie de l'Alsace*, tome2, Colmar, 1880.
- Imbert A., « Les accidents du travail et les compagnies d'assurance », *Revue scientifique*, 4/6/1904.
- Imbert, A. et Mestre, « Statistique d'accidents du travail », *Revue scientifique*,

- 24/9/1904.
- Imbert, A. et Mestre, « Recherches sur la manœuvre du cabrouet et la fatigue qui en résulte », *Bulletin de l'Inspection du travail*, no.5, 1905.
- Imbert, A., « Congrès ouvriers et congrès scientifiques », *Revue scientifique*, 13/5/1905.
- Imbert, A. et Mestre, « Nouvelles statistiques d'accidents du travail », *Revue scientifique*, 21/10/1905.
- Imbert, A., « De la mesure du travail musculaire dans les professions manuelles », *Revue de la Société d'hygiène alimentaire et de l'alimentation rationnelle de l'homme*, tome3, no.4, 1906.
- Imbert, A., « Syndicats ouvriers et compagnies d'assurances », *La Grande Revue*, 10/3/1908.
- Imbert, A., « Le surmenage par suite du travail professionnel », *Bericht über den XIV. Internationalen Kongress für Hygiene und Demographie, Berlin, 23-29 September 1907*, Band2, Berlin, 1908.
- Imbert A., « Le surmenage par suite du travail professionnel au XIV<sup>e</sup> congrès international d'hygiène et de démographie », *L'Année psychologique*, 1908.
- Imbert, A., « Etude expérimentale du travail de transport de charges avec une brouette », *Bulletin de l'Inspection du travail*, nos.1 et 2, 1909.
- Imbert, A., « Rôle des ouvriers dans certains congrès scientifiques », *La Grande Revue*, 10/4/1909.
- Imbert, A., *Le Système Taylor. Analyse et commentaire*, Paris, 1920.
- Laufer, R., *L'organisation physiologique du travail*, Paris, 1907.
- Le Grand, D., *Nouvelle lettre d'un industriel des montagnes des Vosges à M. François Delessert*, Strasbourg, 1839.
- Le Play, F., *Les ouvriers européens*, Paris, 1855.
- Le Play, F., *La réforme sociale en France*, 2 vol., Paris, 1864.
- Le Play, F., *L'organisation du travail*, Tours, 1870.
- Le Play, F., *La méthode sociale*, Tours, 1879.
- Le Play, F., *L'école de la paix sociale*, Tours, 1881.
- Leroy, M., *La coutume ouvrière; syndicats, bourses du travail, fédérations professionnelles, coopératives, doctrines et institutions*, 2 vol., Paris, 1913.
- « Les accidents du travail. La garantie d'indemnité », *La Réforme sociale*, 1/5/1898.
- Les établissements Schneider. Economie sociale*, Paris, 1912.
- Littré, E., *Dictionnaire de la langue française*, tome2, Paris, 1874.
- Loyer, H., *Recueil pour servir aux Archives du Comité ou Chambre syndicale des filateurs de coton de Lille*, Lille, 1873.

- Maroussem, P. du, *Les enquêtes. Pratique et théorie*, Paris, 1900.
- Pinot, R., « Les revendications ouvrières au Congrès international des travailleurs », *La Science sociale*, novembre 1886.
- Pinot, R., *Les œuvres sociales des industries métallurgiques*, Paris, 1924.
- Reybaud, L., *Le coton*, Paris, 1863.
- Say, J.-B., *Cours complet d'économie politique pratique*, Bruxelles, 1840.
- Société des aciéries de Longwy. Institutions patronales. Œuvres de prévoyance sociale*, s.l., 1909.
- Société industrielle de Mulhouse, *Histoire documentaire de l'industrie de Mulhouse et de ses environs au XIX<sup>e</sup> siècle*, Mulhouse, 1902.
- Véron, E., *Les institutions ouvrières de Mulhouse et des environs*, Paris, 1866.
- Villeneuve-Bargemont, A. de, *Économie politique chrétienne*, Bruxelles, 1837.
- Villeneuve-Bargemont, A. de, *Histoire de l'économie politique*, 2 vol., Paris, 1841.
- Villermé, L.-R., « Sur la durée trop longue du travail des enfants », *Annales d'hygiène publique et de médecine légale*, tome 18, 1837.
- Villermé, L.-R., *Tableau de l'état physique et moral des ouvriers employés dans les manufactures de coton, de laine et de soie*, 2 vol., Paris, 1840.

#### 4 外国語二次文献

- Bec, C., *Assistance et République. La recherche d'un nouveau contrat social sous la Troisième République*, Paris, 1994.
- Bec, C., Duprat, C., Luc, J.-N. et Petit, J.-G. (dir.), *Philanthropies et politiques sociales en Europe (XVIII<sup>e</sup>-XX<sup>e</sup> siècles)*, Paris, 1994.
- Beck, R., *Histoire du dimanche de 1700 à nos jours*, Paris, 1997.
- Beltran, A. et Griset, P., *La croissance économique de la France, 1815-1914*, Paris, 1994.
- Blais, M.-C., *La solidarité. Histoire d'une idée*, Paris, 2007.
- Bonnet, S. et Humbert, R., *La ligne rouge des hauts fourneaux. Grèves dans le fer lorrain en 1905*, Paris, 1981.
- Bouvier, J., *Le Crédit lyonnais de 1863 à 1882. Les années de formation d'une banque de dépôt*, 2 vol., Paris, 1961.
- Breton, Y., « Les économistes, le pouvoir politique et l'ordre social en France entre 1830 et 1851 », *Histoire, économie et société*, 4<sup>e</sup> année, no.2, 1985.
- Breton, Y., « Emile Cheysson et l'économie sociale », Luciani, J. (dir.), *Histoire de l'Office du travail, 1890-1914*, Paris, 1992.
- Breton, Y., Broder, A. et Lutfalla, M. (dir.), *La longue stagnation en France. L'autre grande dépression. 1873-1897*, Paris, 1997.

- Caron, F., *Histoire de l'exploitation d'un grand réseau. La Compagnie du chemin de fer du Nord, 1846-1937*, Paris, 1973.
- Castel, R., *Les métamorphoses de la question sociale. Une chronique du salariat*, Paris, 1995 (前川真行訳『社会問題の変容—賃金労働の年代記—』ナカニシヤ出版、2012年).
- Cayet, T., *Rationaliser le travail, organiser la production. Le Bureau international du Travail et la modernisation économique durant l'entre-deux-guerres*, Rennes, 2010.
- Chanial, P. and Laville, J.-L., “French Civil Society Experiences: Attempts to Bridge the Gap between Political and Economic Dimensions”, Evers, A. and Laville, J.-L. (ed.), *The Third Sector in Europe*, Cheltenham, 2004 (内山哲朗・柳沢敏勝訳『欧州サードセクター—歴史・理論・政策—』日本経済評論社、2007年).
- Charle, C., *Histoire sociale de la France au XIX<sup>e</sup> siècle*, Paris, 1991.
- Chatriot, A., Join-Lambert, O. et Viet, V. (dir.), *Les politiques du Travail (1906-2006). Acteurs, institutions, réseaux*, Rennes, 2006.
- Cohen, Y. et Baudouï, R., « Gouverner le social, 1890-1945 », Cohen, Y. et Baudouï, R. (dir.), *Les chantiers de la paix sociale (1900-1940)*, Fontenay/Saint-Cloud, 1995.
- Cointepas, M., *Arthur Fontaine (1860-1931). Un réformateur, pacifiste et mécène au sommet de la Troisième République*, Rennes, 2008.
- Coleman, W., *Death is a Social Disease: Public Health and Political Economy in Early Industrial France*, Madison, 1982.
- Cross, G., “Les Trois Huits: Labor Movements, International Reform, and the Origins of the Eight-Hour Day, 1919-1924”, *French Historical Studies*, vol.14, no.2, 1985.
- Dewerpe, A., *Le monde du travail en France, 1800-1950*, Paris, 1998.
- Donzelot, J., *L'invention du social. Essai sur le déclin des passions politiques*, Paris, 1994.
- Dreyfus, M., *La mutualité. Une histoire maintenant accessible*, Paris, 1988.
- Dreyfus, M., Ruffat, M., Viet, V., Voldman, D. et Valat, B., *Se protéger, être protégé. Une histoire des Assurances sociales en France*, Rennes, 2006.
- Duprat, C., *Usage et pratiques de la philanthropie: pauvreté, action, sociale et lien social à Paris au cours du premier XIX<sup>e</sup> siècle*, 2 vol., Paris, 1997.
- Duroselle, J.-B., *Les débuts du catholicisme social en France (1822-1870)*, Paris, 1951.
- Elwitt, S., *The Third Republic Defended: Bourgeois Reform in France, 1880-1914*, Baton Rouge, 1986.
- Ewald, F., *L'Etat providence*, Paris, 1986.
- Flonneau, J.-M., « Crise de vie chère et mouvement syndical. 1910-1914 », *Le Mouvement social*, no.72, 1970.
- Fohlen, C., *L'industrie textile au temps du Second Empire*, Paris, 1956.

- Frey, J.-P., *Le rôle social du patronat: Du paternalisme à l'urbanisme*, Paris, 1995.
- Fridenson, P. et Strauss, A. (dir.), *Le capitalisme français, XIX<sup>e</sup>-XX<sup>e</sup> siècle, blocages et dynamismes d'une croissance*, Paris, 1987.
- Fridenson, P., « Les organisations, un nouvel objet », *Annales E. S. C.*, 44<sup>e</sup> année, no.6, novembre-décembre 1989.
- Gaillard, J.-M., « Les beaux jours du paternalisme », *L'Histoire*, no.195, 1996.
- Gibaud, B., *De la mutualité à la sécurité sociale. Conflits et convergences*, Paris, 1986.
- Godineau, L., « L'économie sociale à l'Exposition universelle de 1889 », *Le Mouvement social*, no.149, 1989.
- Gregarek, R., « Joutes franco-allemandes autour de la paix sociale. Français et Allemands aux Congrès internationaux des accidents du travail et des assurances sociales (1889-1914) », *Cahiers d'études germaniques*, no.21, 1991.
- Gueslin, A., *L'invention de l'économie sociale. Idées, pratiques et imaginaires coopératifs et mutualistes dans la France du XIX<sup>e</sup> siècle*, Paris, 1998.
- Hatzfeld, H., *Du paupérisme à la sécurité sociale, 1850-1940. Essai sur les origines de la Sécurité sociale en France*, Paris, 1971.
- Hau, M., *L'industrialisation de l'Alsace (1803-1939)*, Strasbourg, 1987.
- Hau, M., « Pauvreté rurale et dynamisme économique: le cas de l'Alsace au XIX<sup>e</sup> siècle », *Histoire, économie et société*, 6<sup>e</sup> année, no.1, 1987.
- Heywood, C., *Childhood in Nineteenth-Century France: Work, Health and Education among the Classes Populaires*, Cambridge, 1988.
- Hirsch, J.-P., *Les deux rêves du commerce. Entreprise et institution dans la région lilloise (1780-1860)*, Paris, 1991.
- Horne, J. R., *A Social Laboratory for Modern France. The Musée Social and the Rise of the Welfare State*, Durham, 2002.
- Jeantet, T., *Economie sociale: La solidarité au défi de l'efficacité*, Paris, 2006 (石塚秀雄 訳『フランスの社会的経済』日本経済評論社、2009年).
- Jonas, S., *Mulhouse et ses cités ouvrières: perspective historique 1840-1918: quatre-vingts ans d'histoire urbaine et sociale du logement ouvrier d'origine industrielle*, Strasbourg, 2003.
- Kaelble, H., *Auf dem Weg zu einer europäischen Gesellschaft. Eine Sozialgeschichte Westeuropas, 1880-1980*, München, 1987 (雨宮昭彦・金子邦子・永岑三千輝・古内博行 訳『ひとつのヨーロッパへの道—その社会史的考察—』日本経済評論社、1997年).
- Kahan-Rabecq, M.-M., *La classe ouvrière en Alsace pendant la Monarchie de Juillet*, Paris, 1939.
- Kalaora, B. et Savoye, A., *Les inventeurs oubliés. Le Play et ses continuateurs aux*

- origines des sciences sociales*, Seyssel, 1989.
- Kaplan, S. L. et Minard, P. (dir.), *La France, malade du corporatisme ? XVIII-XX<sup>e</sup> siècles*, Paris, 2004.
- Klausen, J. and Tilly, L. A. (ed.), *European Integration in Social and Historical Perspective: 1850 to the Present*, Lanham, 1997.
- Köll, L., *Auboué en Lorraine du fer au début du siècle*, Paris, 1981.
- Kott, S., « Enjeux et significations d'une politique sociale: la Société industrielle de Mulhouse (1827-1870) », *Revue d'histoire moderne et contemporaine*, tome34, oct.-déc., 1987.
- Kott, S., *L'Etat social allemand. Représentations et pratiques*, Paris, 1995.
- Kott, S., « Vers une historiographie européenne de l'Etat social? Recherches récentes sur les cas français et allemand au XIX<sup>e</sup> siècle », *Archiv für Sozialgeschichte*, Bd.35, 1995.
- Kott, S., « Les politiques sociales en France et en Allemagne (1880-1914) », Guedj, F. et Sirot, S. (dir.), *Histoire sociale de l'Europe: industrialisation et société en Europe occidentale, 1880-1970*, Paris, 1997.
- Lagrange, M. (dir.), *La sécurité sociale. Son histoire à travers les textes, tome2. 1870-1945*, Paris, 1996.
- Landes, D., "French Entrepreneurship and Industrial Growth in the Nineteenth-Century", *Journal of Economic History*, vol.9, 1949.
- Le Clère, B. et Wright, V., *Les préfets du Second Empire*, Paris, 1973.
- Lefebvre, G., *Foules révolutionnaires*, Paris, 1934 (二宮宏之訳『革命的群衆』創文社, 1982年) .
- Le Goff, J., *Du silence à la parole. Une histoire du droit du travail des années 1830 à nos jours*, Rennes, 2004.
- Lespinet, I., « Rencontres autour de la question sociale: Le Conseil supérieur du travail entre 1891-1914 », Chambelland, C. (dir.), *Le Musée social en son temps*, Paris, 1998.
- Lespinet-Moret, I., *L'Office du Travail (1891-1914). La République et la réforme sociale*, Rennes, 2007.
- Lespinet-Moret, I. et Viet, V. (dir.), *L'Organisation internationale du travail. Origine, développement, avenir*, Rennes, 2011.
- Leuilliot, P., *L'Alsace au début du XIX<sup>e</sup> siècle (1815-1830)*, tome2, Paris, 1959.
- Le Van-Lemesle, L., « L'institutionnalisation de l'économie politique en France », Breton, Y. et Lutfalla, M. (dir.), *L'économie politique en France au XIX<sup>e</sup> siècle*, Paris, 1991.

- Le Van-Lemesle, L., *Le juste ou le riche. L'enseignement de l'économie politique, 1815-1950*, Paris, 2004.
- Lévy, R., *Histoire économique de l'industrie cotonnière en Alsace*, Paris, 1912.
- Lévy-Leboyer, M., « La croissance économique en France au XIX<sup>e</sup> siècle. Résultats préliminaires », *Annales E. S. C.*, 23<sup>e</sup> année, no.4, 1968.
- L'Huillier, F., *La lutte ouvrière à la fin du Second Empire*, Paris, 1957.
- Logue, W., *From Philosophy to Sociology: The Evolution of French Liberalism, 1870-1914*, De Kalb, 1983 (南充彦・堀口良一・山本周次・野田裕久訳『フランス自由主義の展開 1870~1914—哲学から社会学へ—』ミネルヴァ書房、1998年).
- Luciani, J. et Salais, R., « Matériaux pour la naissance d'une institution: l'Office du Travail (1890-1900) », *Genèses*, no.2, 1990.
- Luciani, J. (dir.), *Histoire de l'Office du travail, 1890-1914*, Paris, 1992.
- Lynch, K. A., *Family, Class and Ideology in Early Industrial France: Social Policy and the Working-Class Family, 1825-1848*, Madison, 1988.
- Marec, Y., *Bienfaisance communale et protection sociale à Rouen, 1796-1927. Expériences locales et liaisons nationales*, 2 vol., Paris, 2002.
- Moulin, A., *Les paysans dans la société française de la Révolution à nos jours*, Paris, 1988.
- Moutet, A., *Les logiques de l'entreprise. La rationalisation dans l'industrie française de l'entre-deux-guerres*, Paris, 1997.
- Noiriel, G., *Les ouvriers dans la société française, XIX<sup>e</sup>-XX<sup>e</sup> siècle*, Paris, 1986.
- Noiriel, G., « Du « patronage » au « paternalisme » : la restructuration des formes de domination de la main-d'œuvre ouvrière dans l'industrie métallurgique française », *Le Mouvement social*, no.144, 1988.
- Olszak, N., « La défense collective des intérêts: la loi du 21 mars 1884 relative à la création des syndicats professionnels », Le Crom, J.-P. (dir.), *Deux siècles de droit du travail. L'histoire par les lois*, Paris, 1998.
- Perrot, M., *Les ouvriers en grève. France. 1871-1890*, 2 vol., La Haye, 1974.
- Perrot, M., "The Three Ages of Industrial Discipline in Nineteenth-Century France", J. M. Merriman (ed.), *Consciousness and Class Experience in 19th-Century Europe*, New York, 1979.
- Procacci, G., *Gouverner la misère. La question sociale en France (1789-1848)*, Paris, 1993.
- Rabinbach, A., "The European Science of Work: The Economy of the Body at the End of the Nineteenth Century", Kapla, S. L. and Koepp, C. J. (ed.), *Work in France*, New York, 1987.

- Reddy, W. M., *The Rise of Market Culture. The Textile Trade and French Society, 1750-1900*, Cambridge, 1984.
- Reid, D., "Industrial Paternalism: Discourse and Practice in Nineteenth-Century French Mining and Metallurgy", *Comparative Studies in Society and History*, vol.27, no.4, 1985.
- Ribeill, G., « Les débuts de l'ergonomie en France à la veille de la Première Guerre mondiale », *Le Mouvement social*, no.113, 1980.
- Robert, J.-L. (dir.), *Inspecteurs et Inspection du Travail sous la III<sup>e</sup> et IV<sup>e</sup> République*, Paris, 1998.
- Rosanvallon, P., *Le moment Guizot*, Paris, 1985.
- Rosanvallon, P., *L'Etat en France de 1789 à nos jours*, Paris, 1990.
- Rosanvallon, P., *La crise de l'Etat-providence*, Paris, 1992.
- Rosanvallon, P., *Le modèle politique français. La société civile contre le jacobinisme de 1789 à nos jours*, Paris, 2004.
- Rust, M. J., *Business and Politics in the Third Republic: the Comité des Forges and the French Steel Industry*, Ph. D. Princeton University, 1973.
- Sauvy, A., *Histoire économique de la France entre deux guerres*, 4 vol., Paris, 1965-1975.
- Savoye, A., « Les paroles et les actes: les dirigeants de la Société d'économie sociale, 1883-1914 », Topalov, C. (dir.), *Laboratoires du nouveau siècle. La nébuleuse réformatrice et ses réseaux en France, 1880-1914*, Paris, 1999.
- Savoye, A., « La monographie sociologique: jalons pour son histoire (1855-1914) », *Les Etudes sociales*, no.131-132, 2000.
- Schafer, S., *Children in Moral Danger and the Problem of Government in Third Republic France*, Princeton, 1997.
- Thompson, E. P., *Customs in Common. Studies in Traditional Popular Culture*, London, 1991.
- Topalov, C. (dir.), *Laboratoires du nouveau siècle. La nébuleuse réformatrice et ses réseaux en France, 1880-1914*, Paris, 1999.
- Topalov, C., « Patronages », Topalov, C. (dir.), *Laboratoires du nouveau siècle. La nébuleuse réformatrice et ses réseaux en France, 1880-1914*, Paris, 1999.
- Topalov, C., « Les « réformateurs » et leurs réseaux: enjeux d'un objet de recherches », Topalov, C. (dir.), *Laboratoires du nouveau siècle. La nébuleuse réformatrice et ses réseaux en France, 1880-1914*, Paris, 1999.
- Tournerie, J.-A., *Le ministère du Travail. Origines et premiers développements*, Paris, 1971.



- Vasseur, E., « Frédéric Le Play et l'Exposition universelle de 1867 », Savoye, A. et Cardoni, F. (dir.), *Frédéric Le Play. Parcours, audience, héritage*, Paris, 2007.
- Vienney, C., *L'économie sociale*, Paris, 1994.
- Viet, V., *Les voltigeurs de la République. L'Inspection du travail en France jusqu'en 1914*, 2 vol., Paris, 1994.
- Vitoux, M.-C., *Paupérisme et assistance à Mulhouse au XIX<sup>e</sup> siècle*, Strasbourg, 1986.
- Weissbach, L. S., *Child Labor Reform in Nineteenth-Century France: Assuring the Future Harvest*, Baton rouge, 1989.

## 5 日本語文献

- 安藤隆穂『フランス自由主義の成立—公共圏の思想史—』名古屋大学出版会、2007年。
- イルシュ、ジャン=ピエール（齊藤佳史・廣田功訳）「フランスにおける競争をめぐる言説と行為—19世紀から今日までを振り返って—」（『歴史と経済』第189号、2005年10月）。
- 岩村正彦『労災補償と損害賠償—イギリス法・フランス法との比較法的考察—』東京大学出版会、1984年。
- 遠藤輝明「フランス産業革命の展開過程」（高橋幸八郎編『産業革命の研究』岩波書店、1965年）。
- 遠藤輝明「「産業の規律」と独占—フランスにおける労働と資本と国家—」（『社会経済史学』第56巻第2号、1990年8月）。
- 遠藤輝明「フランス・レジオナリズムの歴史的位相—人と地域と国家をめぐる相関の変遷—」（遠藤輝明編『地域と国家—フランス・レジオナリズムの研究—』日本経済評論社、1992年）。
- 遠藤輝明「資本主義の発達と「工場／都市」—ル・クルーズにおける「工場の規律」と労使関係—」（遠藤輝明編『地域と国家—フランス・レジオナリズムの研究—』日本経済評論社、1992年）。
- 大森弘喜「いわゆる La Grosse Métallurgie の生成・発展（2）—ベル=エポック期のフランス鉄鋼業分析—」（『経済系（関東学院大学）』第148集、1986年7月）。
- 大森弘喜『フランス鉄鋼業史—大不況からベル=エポックまで—』ミネルヴァ書房、1996年。
- 岡部造史「フランス第三共和政期の地方制度改革—1884年「コムューン組織法」の論理—」（『史学雑誌』第108編第7号、1999年7月）。
- 小田中直樹『フランス近代社会 1814～1852—秩序と統治—』木鐸社、1995年。
- 小田中直樹「産業革命 フランス」（馬場哲・小野塚知二編『西洋経済史学』東京大学出版会、2001年）。
- 小野塚知二「介入的自由主義の時代—自由と公共性の共存・相克をめぐる—」（小野塚知

- 二編『自由と公共性—介入的自由主義とその思想的起点—』日本経済評論社、2009年)。  
重田園江『連帯の哲学 I—フランス社会連帯主義—』勁草書房、2010年。  
北垣徹「「連帯」の理論の創出—デュルケームを中心として—」(『ソシオロジ』第37巻第3号、1993年2月)。  
北垣徹「新たな社会契約—フランス第三共和政期における福祉国家の哲学的基礎—」(『ソシオロジ』第40巻1号、1995年5月)。  
喜安朗『近代フランス民衆の〈個と共同性〉』平凡社、1994年。  
古賀和文『近代フランス産業の史的分析』学文社、1983年。  
権上康男「フレシネ・プラン(1878-82)と財政投資政策—大不況期における国家と経済—」(遠藤輝明編『国家と経済—フランス・ディリジズムの研究—』東京大学出版会、1982年)。  
権上康男・廣田明・大森弘喜編『20世紀資本主義の生成—自由と組織化—』東京大学出版会、1996年。  
柴田三千雄『近代世界と民衆運動』岩波書店、1983年。  
清水克洋『フランス工場体制論』青木書店、1996年。  
清水克洋「19世紀末セーヌ県における工業労働者の労働市場—1891年労働局調査『フランス工業における賃金と労働日』の検討—」(『商学論纂(中央大学)』第44巻第6号、2003年6月)。  
シャトリオ、アラン(廣田明訳)「フランス・パターンリズムの史的考察:19-20世紀」(『大原社会問題研究所雑誌』第611・612号、2009年9月)。  
高井哲彦「フランス労使関係における多元構造の起源—スト破り組合の誕生と衰退、1897-1929年—」(『経済学研究(北海道大学)』第53巻第3号、2003年12月)。  
高村学人『アソシアシオンへの自由—〈共和国〉の論理—』勁草書房、2007年。  
武田晴人「日本経済史の視点から(コメント3)」(『歴史と経済』第203号(2008年度秋季学術大会特集)、2009年4月)。  
田中拓道『貧困と共和国—社会的連帯の誕生—』人文書院、2006年。  
谷川稔『フランス社会運動史—アソシアシオンとサンディカリズム—』山川出版社、1983年。  
遅塚忠躬『ロベスピエールとドリヴィエ—フランス革命の世界史的位罫—』東京大学出版会、1986年。  
堂目卓生『アダム・スミス—『道徳感情論』と『国富論』の世界—』中央公論新社、2008年。  
中野隆生「フランス繊維業における福祉事業と労働者の統合—1920年代のルールを中心に—」(『社会経済史学』第48巻第6号、1983年3月)。  
中野隆生『プラーグ街の住民たち—フランス近代の住宅・民衆・国家—』山川出版社、1999年。

- 永岑三千輝・廣田功編『ヨーロッパ統合の社会史—背景・論理・展望—』日本経済評論社、2004年。
- 二宮宏之「フランス絶対王政の統治構造」（吉岡昭彦・成瀬治編『近代国家形成の諸問題』木鐸社、1979年）。
- 服部春彦『フランス産業革命論』未来社、1968年。
- 原輝史「フランスにおける科学的管理法の展開」（原輝史編『科学的管理法の導入と展開』昭和堂、1990年）。
- 原輝史『フランス戦間期経済史研究』日本経済評論社、1999年。
- 廣澤孝之『フランス「福祉国家」体制の形成』法律文化社、2005年。
- 廣田明「フランス革命以後における中間集団の再建—ル・プレ学派を中心として—」（『土地制度史学』第127号、1990年4月）。
- 廣田明「フランス・レジオナリズムの成立—ル・プレ学派における家族、労働、地域—」（遠藤輝明編『地域と国家—フランス・レジオナリズムの研究—』日本経済評論社、1992年）。
- 廣田明「社会的連帯と自由—フランスにおける福祉国家原理の成立—」（小野塚知二編『自由と公共性—介入的自由主義とその思想的起点—』日本経済評論社、2009年）。
- 廣田功『現代フランスの史的形成—両大戦間期の経済と社会—』東京大学出版会、1994年。
- 廣田功「「大戦」とフランス経済社会の再編」（『歴史と経済』第191号、2006年4月）。
- 深澤敦「レギュラシオン理論—「非市場的調整」の政治経済学—」（山本広太郎・大西広・揚武雄・角田修一編『経済学史』青木書店、1995年）。
- 深澤敦「非市場的調整の発展—20世紀フランスにおける労働と福祉—」（『土地制度史学』別冊（20世紀資本主義—歴史と方法の再検討—創立五十周年記念大会報告集）、1999年9月）。
- 藤村大時郎「第二帝政期フランスにおける経営パターナリズムをめぐって—同時代の労働問題研究家の関心状況を中心として—」（『社会経済史学』第44巻第6号、1979年3月）。
- 毛利健三『古典経済学の地平—理論・時代・背景—』ミネルヴァ書房、2008年。
- 矢後和彦『フランスにおける公的金融と大衆貯蓄—預金供託金庫と貯蓄金庫 1816-1944—』東京大学出版会、1999年。
- 矢後和彦「両大戦間期のヨーロッパ経済 フランス—比較経済史と「修正史観」を中心に—」（馬場哲・小野塚知二編『西洋経済史学』東京大学出版会、2001年）。
- 柳澤治『資本主義史の連続と断絶—西欧的發展とドイツ—』日本経済評論社、2006年。
- ロザンヴァロン、ピエール（北垣徹訳）『連帯の新たなる哲学—福祉国家再考—』勁草書房、2006年。